

2022年（令和4年）度 事業報告書

（2022年4月1日から2023年3月31日）

認定特定非営利活動法人フードバンク信州

I 事業の総括

2022年度は、新型コロナウイルスの影響による社会的規制状態が3年目を迎えるとともに、後半は食料品を含めた広範囲の物価高騰が急激に進んだ影響により、貧困と食をめぐる問題が顕在化し、一層深刻化が進んだ。

このような社会情勢の中、フードバンク信州は、貧困ニーズが多様化していること、また支援につながりにくいグレーゾーンの貧困が増加してきた状況を踏まえ、多様な機関、団体、企業等との連携により、ニーズ把握と支援活動につなげるための体制づくりに取り組んだ。

コロナ禍の影響が始まった2020年度から2022年度の3年間継続して「食を通じた循環型地域システムの構築」をも目標に掲げ、企業や市民からの食品受け入れと要支援者への食品提供の見える化を図り、食料の循環を通して支え合いの地域づくりが広がることを目的に事業に取り組んだ。

コロナ禍における食料循環を進める活動を通して、企業や市民の皆さんの食料を寄贈し、困窮状態にある人たちの支援に役立てたいとの機運も高まりつつあることから、フードバンク信州では、2021年度から食料寄贈の円滑化を図り、支援のニーズとつなげるマッチングシステム開発を進め、2023年度からシステム稼働の予定となった。

II 事業の柱

1 食料循環の広域圏連携活動の推進

○食料循環のマッチングシステムの構築

2021年に設置した「長野県フードバンク活動団体連絡会」との連携により、県内の各地域において食料循環機能を強化し、ニーズに対応した支援が継続的につながるためのシステムを構築をめざした。

「連絡会」主催による広域活動として、「長野県フードドライブ統一キャンペーン」を年間4回開催し、県内全域での食料循環活動の普及に取り組んだ。

○食料循環の地域拠点との連携・協働活動の推進

長引くコロナ禍と物価高騰による貧困課題の増加に対して、県内の市町村社協等において独自にフードバンク活動に取り組む地域が増えてきた。これらの地域の活動振興を踏まえて、地域活動と広域活動の協働による活動推進を図った。

2 緊急支援活動と継続的支援事業の連携推進

○コロナ対応子ども応援プロジェクト事業

新型コロナ感染による社会活動規制が始まった2020年7月から子育て困窮世帯を対象に開始した「コロナ対応子ども応援プロジェクト」を継続実施した。長野県内全域を対象に緊急的貧困状態で支援が届きにくい制度の狭間にある子育て困窮世帯から Web サイトから直接申し込みを受け、個別に食料の詰め合わせを郵送する方法で長野県内全域を対象に展開した。

利用者アンケートによりプロジェクト利用世帯は、これまで急激な生活逼迫により申し込んだという世帯の割合が多い等の緊急的な貧困課題が明らかとなった。アンケート結果を分析し、関係機関等と課題を共有し、課題解決向けの連携提案を行った。

○地域活動拠点の機能強化とネットワークによる継続的支援推進

県下各地域において食料寄贈と食料提供を効率的に展開するため、地域活動の活性化及び強化を目指した。コロナ禍の影響で市町村社会福祉協議会や地域の困窮者支援団体に取り組む活動に協力し、地域ごとの活動拠点の定着を応援した。

3 新たな連携関係による事業の推進

(1) 長野県フードバンク活動団体連絡会の活動

2021年9月に発足した連絡会には、県内の行政、社会福祉協議会、支援団体等が参加し、協働事業で「県下一斉フードドライブキャンペーン」を実施し、県内の食料循環の活動に一役買っている。

(2) 広域フードパントリーの運営

長野県社協と社会福祉法人等が連携し、2021年6月に設置した広域フードパントリー「むすびや」は、広域の協働倉庫と県内への食料配送の拠点として役割を担っている。

(3) 「フレッシュフードシェア」

フードバンク信州と松本市が協働し、道の駅の売れ残った生鮮野菜を受入、地域の子ども食堂や支援団体に配布する活動を月2回定例で継続実施している。

(4) 宅配事業の余剰パンの活用

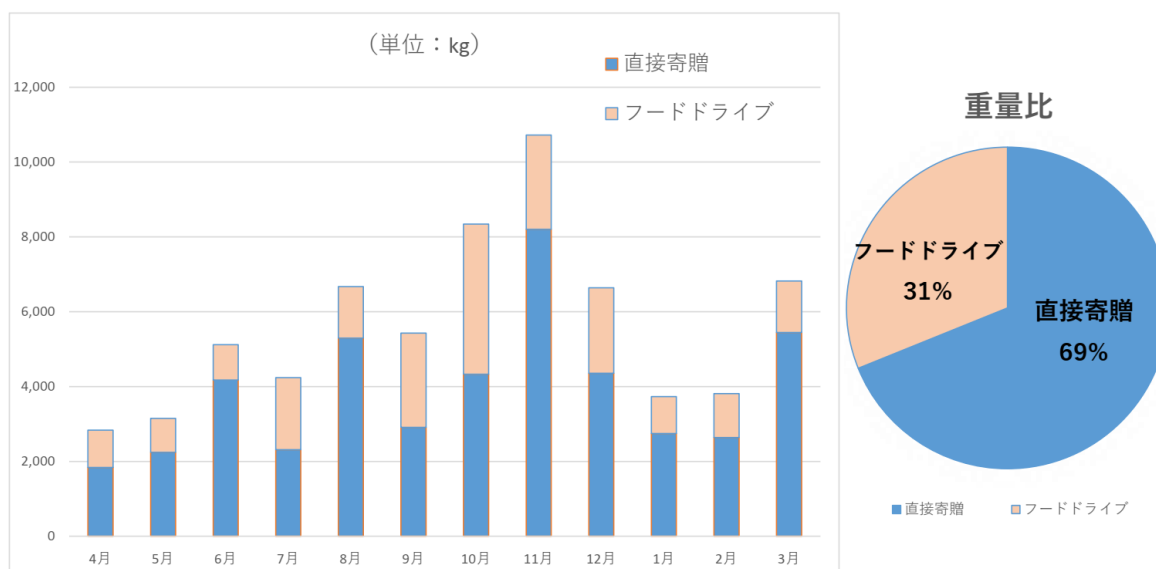
生活協同組合コープながのとフードバンク信州の連携により、宅配用の余剰パンを、支援団体や子ども食堂運営団体等の活動に利用する事業を2023年3月に開催した。

Ⅲ 実施事業

1 食料の受け入れと提供

2022年度 寄贈受入実績 寄贈種類別重量比

2022年4月1日～2023年3月31日



寄贈の種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	寄贈の種類	年間計
直接寄贈	1,840	2,244	4,176	2,311	5,297	2,913	4,328	8,204	4,358	2,745	2,638	5,444	直接寄贈	46,497kg
フードドライブ	994	906	945	1,927	1,374	2,514	4,013	2,519	2,281	988	1,172	1,375	フードドライブ	21,009kg
合計	2,834	3,150	5,121	4,238	6,671	5,426	8,341	10,723	6,639	3,732	3,810	6,820	合計	67,506kg
前年度実績	3,560	2,723	3,975	4,070	5,668	5,161	10,411	7,074	7,277	5,886	17,406	7,372	前年度実績	80,584kg
比率	79.6%	115.7%	128.8%	104.1%	117.7%	105.1%	80.1%	151.6%	91.2%	63.4%	21.9%	92.5%	比率	83.8%

【寄贈主体別実績】

寄贈主体		延べ寄贈件数 (件)	寄贈重量 (kg)	重量割合 (%)
直接寄贈	① 企業	162	17,993	26.7
	② 団体	281	18,494	27.4
	③ 個人	705	10,010	14.8
フードドライブ		155	21,009	31.1
計		1,303	67,506	100.0

【フードドライブの開催状況】

① 定期開催フードドライブ (4地区計36回、12.5トン)

フードバンク信州の本部(長野)と3地域拠点(松本、上田、飯田)では、毎月1回定期開催し、定着している。

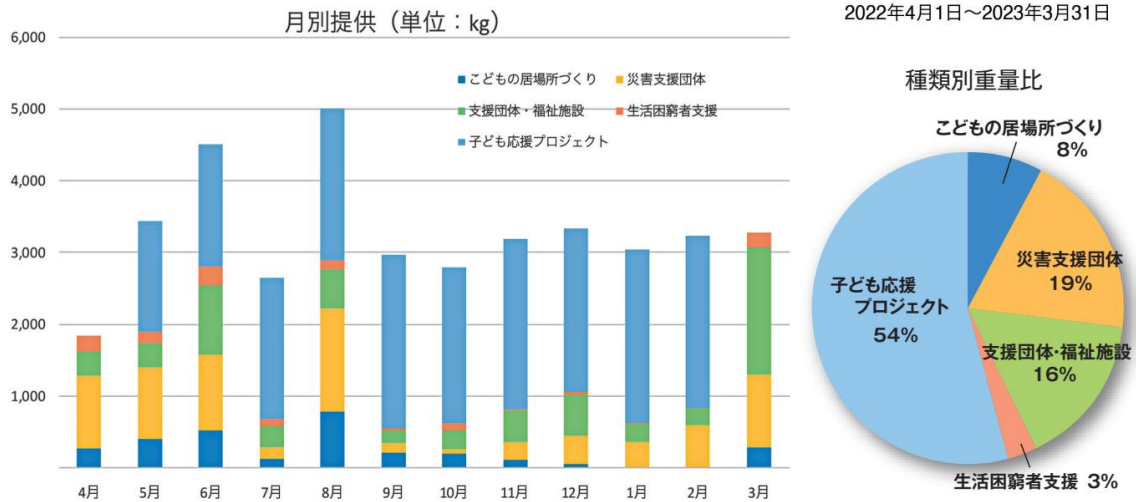
② イベント開催 (全県計119回、8.6トン)

団体のイベント、地域の行事、企業内FD、高校イベント等で開催し、集まった食料をフードバンク信州に寄贈されたもの

【食料の提供】

〔提供実績〕

2022年度 提供実績 提供種類別重量比 [長野本部]



提供の種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	提供の種類	年間計
子どもの居場所づくり	279	415	531	135	785	220	202	112	50		20	296	子どもの居場所づくり	3,042kg
災害支援団体	1,004	982	1,044	156	1,433	126	57	259	399	361	577	1,011	災害支援団体	7,411kg
支援団体・福祉施設	338	349	969	301	541	187	273	427	568	249	229	1,768	支援団体・福祉施設	6,200kg
生活困窮者支援	215	150	265	96	132	21	97	18	49	17	4	200	生活困窮者支援	1,265kg
子ども応援プロジェクト		1,543	1,700	1,964	2,119	2,412	2,170	2,380	2,265	2,417	2,397		子ども応援プロジェクト	21,368kg
合計	1,837	3,440	4,509	2,652	5,010	2,965	2,799	3,195	3,331	3,046	3,227		合計	39,286kg

支援食料の提供先の主な内容は次の通り

○「子ども応援プロジェクト」

コロナ禍の困窮ニーズの増加に対応して取り組んだ子育て世帯を応援する緊急プロジェクトは3年継続して実施することになった。年間食料支援の54%を緊急プロジェクトの支援にあて、全県で延べ2,670件の世帯に食料を届けた。

○「子どもの居場所づくり支援」

コロナ禍が長引く中で、子どもカフェや子ども食堂などの開催が減っていたが、3年目を迎えウィズコロナに対応し、会場開催が復活してきたため、開催支援のため食料提供を行った。

○「困窮者支援団体・福祉施設等への提供」

困窮者支援を行っている民間支援団体や市町村社会福祉協議会などの活動についてもコロナ禍の影響で食料支援ニーズが高まり、28団体に対して食料提供を行った。

○「生活困窮者支援」

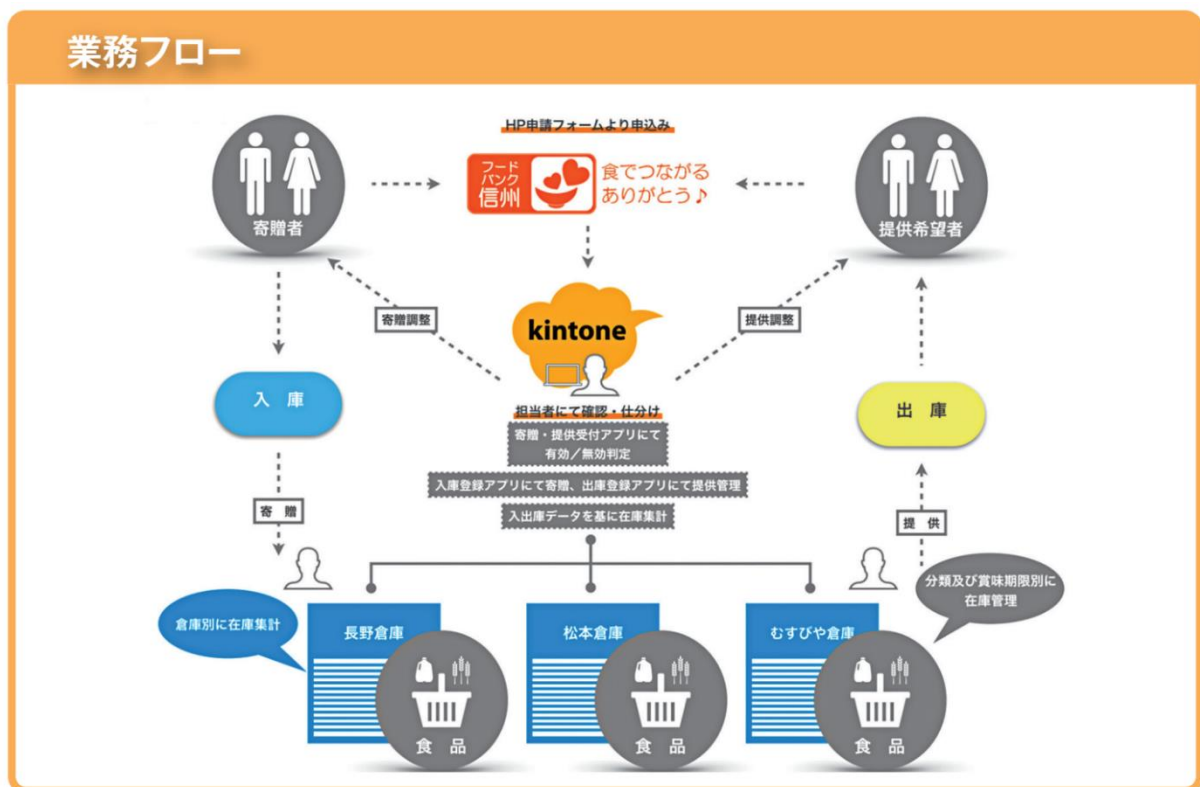
長野県内の「まいさぼ」（生活・就労支援センター）の相談者で食料支援を必要としている世帯に対して長野県社会福祉協議会と長野市社会事業協会が行う食料支援事業と連携し支援を行った。

2 食の循環システム構築事業

(※ 休眠預金を活用した民間公益活動事業)

長野県内の企業等における食品ロスの有効活用のため食品寄贈を推進し、寄贈された食品を地域支援ネットワークとの連携により困窮者支援につなげる地域の食の循環システムを構築する事業を実施した。

2021年度に実施した「企業のフードバンク活動についてのアンケート調査」の結果及び「食の循環システム検討会議」の検討内容を踏まえて、地域における食の循環の仕組みとなるプラットフォームの構築をめざし、2023年末の運用開始に向けて事業を進めた。



4 コロナ禍と物価高騰に対応する子育て世帯応援プロジェクト

(※ 独立行政法人福祉医療機構助成金を活用した事業)

2020年度からのコロナ禍に対応して開始した緊急支援事業「コロナ対応緊急子ども応援プロジェクト」は、2021年度、2022年度と継続して実施した。

2022年度は、ウィズコロナ時代に向かって生活を取り戻すための「コロナに負けない応援プロジェクト」に切り替えて実施した。

利用者は、長野県内全域に広がり、公的制度から漏れたニーズへの対応の必要性が明らかとなった。

コロナに負けない子ども応援プロジェクト

新型コロナの感染拡大に伴う新たな緊急的貧困課題に対し、制度の狭間で支援につながっていない子育て世帯への食料支援を2020年7月から2023年2月まで3年間実施した。

- ・対象：コロナ禍で生活が急激に逼迫した小学生のいる世帯
- ・活動範囲：長野県全域（制度につながりにくい層を想定）
- ・支援方法：Webで個人が直接エントリーし、FB信州から直接宅配で個別配送
- ・支援回数：2か月に1回募集（その都度申込）

（実績）

2020年度 延べ 1,076件 送付重量 8.9トン
 2021年度 延べ 2,335件 送付重量 19.3トン
 2022年度 延べ 2,670件 送付重量 21.4トン



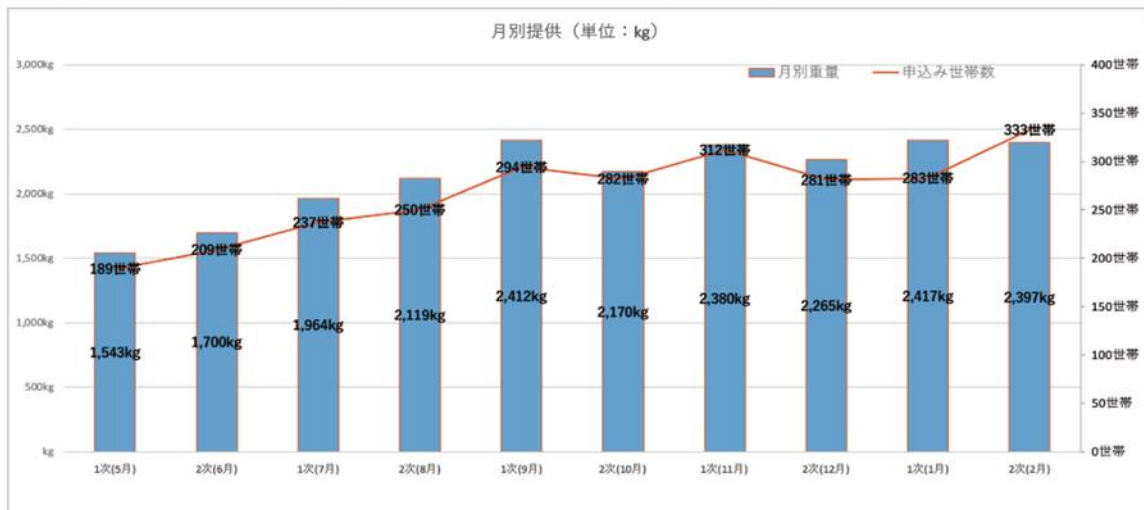
※ 子ども応援プロジェクトで見えてきた課題

- ・貧困層が変わった
 これまでの貧困層でなかった世帯の困窮化
- ・緊急的な食料ニーズに対応する仕組みがない
 民間の食料循環の仕組みが必要

〔子ども応援プロジェクト実績〕

2022年度 子ども応援プロジェクト 提供実績 月別重量・世帯数推移

2022年4月1日～2023年3月31日



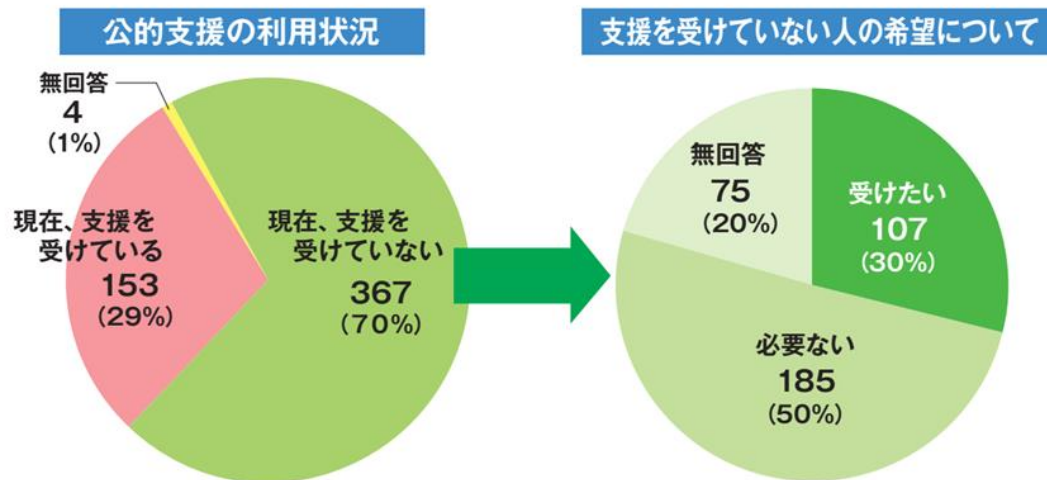
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回						
1次(5月)	2次(6月)	1次(7月)	2次(8月)	1次(9月)	2次(10月)	1次(11月)	2次(12月)	1次(1月)	2次(2月)	年間計
1,543kg	1,700kg	1,964kg	2,119kg	2,412kg	2,170kg	2,380kg	2,265kg	2,417kg	2,397kg	21,368kg
189世帯	209世帯	237世帯	250世帯	294世帯	282世帯	312世帯	281世帯	283世帯	333世帯	2,670世帯

〔子ども応援プロジェクト利用者のアンケート〕

アンケート 公的支援の利用状況と希望について

市町村や社会福祉協議会等の日常的な支援について、「現在何らかの支援を受けているか」との問いに対して、回答状況は下記の通りとなった。

回答者のうち、「公的支援を受けている」世帯は29%にとどまり、「現在支援を受けていない」との回答は70%となった。受けていないとの回答者のうち、「今後支援を受けたい」との回答者は29%、「支援は必要ない」との回答者は50%となった。コロナ禍や物価高騰による生活変化で突然の困窮状態に制度そのものを知らない世帯も多いと思われる。ウィズコロナの中で緊急的支援から継続的な社会的支援にどうつなげていくかが今後の課題といえる。

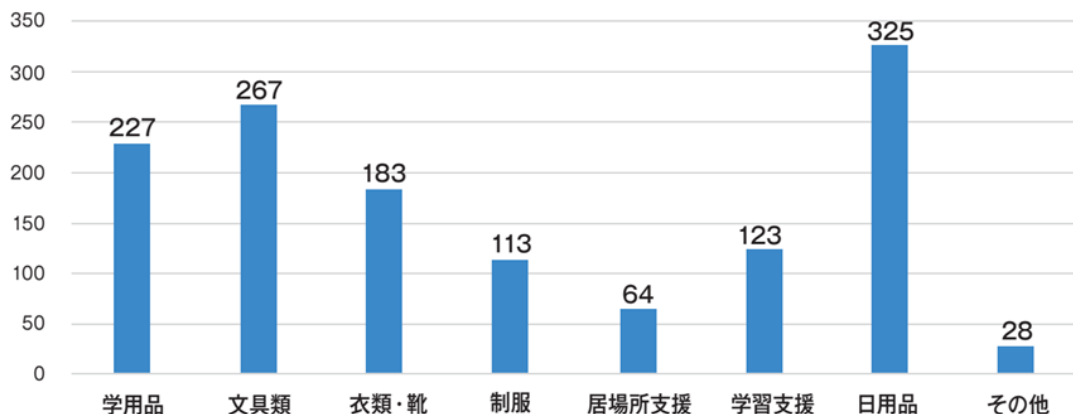


〔子ども応援プロジェクト利用者のアンケート〕

アンケート 食料支援以外に希望する支援について

食料支援以外に子育てのために必要な取り組みをについて自由記述方式で回答された内容を見ると、食料が不足している世帯はその他の日用品や、地域の居場所、学習の場が不足していることがうかがわれる。

食品以外の支援希望（回答数）



IV 運 営

(1) 会員の構成

2023年4月1日現在

	団体	個人	合計
正会員	22	17	39
賛助会員	48	25	73

(2) 理事会

第1回 2022年5月24日 もんぜんぶら座 302会議室

- ・2021年度事業報告(案)について
- ・2021年度決算報告(案)について
- ・2022年度事業計画(案)について
- ・2022年度活動予算(案)について
- ・役員変更について
- ・2022年度通常総会の日程について

第2回 2022年9月9日 もんぜんぶら座 302会議室

- ・長野県フードバンク活動団体連絡会議について
- ・子ども応援プロジェクト事業実施状況について
- ・今後の事業推進方策について

第3回 2022年12月5日 もんぜんぶら座 304会議室

- ・諸規程の整備について
- ・食料支援事業に係る連携・協力に関する協定締結について
- ・年末フードドライブ統一キャンペーンについて

第4回 2023年2月6日 もんぜんぶら座 304会議室

- ・諸規程の整備について